

2022年10月28日

2022年度 フードバンク活動でつながる狛江の団体交流会
実施報告書

主催：NPO法人フードバンク狛江

共催：狛江市

■ はじめに：

コロナ禍による生活困窮が深刻化するなか、食料支援でフードバンクへの期待が寄せられました。狛江市の生活困窮者自立支援への食品提供もコロナ感染拡大以前に比べ約 2.5 倍となりました。一方、食品業界では食材の需要が減って、その活用先としてもフードバンクが注目され、市民からの食品寄贈もコロナ以前より約 1.8 倍となり、食料支援の増加に応えることができました。

そこで、フードバンクへの食品の寄贈や支援を行っている団体と、その食品を活用して生活困窮者や子ども・高齢者・障がい者の支援を行う団体が 3 年振りに集い、地域の「食の分かち合い」をフードバンク活動を通じて根付かせて行くため、交流会を企画しました。

■ 事業名：「フードバンク活動でつながる狛江の団体交流会」

■ 目的：

- ① フードバンクへの食品寄贈等でご支援・ご協力いただいている団体・個人と、フードバンクに寄贈された食品等を活用する福祉・支援団体が顔を合わせて知り合うこと。
- ② 地域での「食の分かち合い」がどう役立っているか、交流の中で実感し合う。
- ③ フードバンクが地域に必要とされ、また持続可能な活動とするために、どんな課題あるか共有する。

■ 事業内容：

- (1) 開催日時：2022 年 10 月 28 日（金）18：30～20：30
- (2) 開催場所：狛江市防災センター 4 階 401～403 会議室（狛江市和泉本町 1-1-5）
- (3) プログラム

18:10	受付開始
18:30	開会 主催者フードバンク・狛江市（福祉相談課）のあいさつ
18:35	フードバンク狛江の活動報告
18:45	こま YELL の事業報告
18:55	参加団体の自己紹介とフードバンクとの関り、団体の事業・活動報告など
20:10	自由交流会
20:25	交流会集約
20:30	閉会

- (2) 参加団体・人数； 32 団体、43 名（「参加団体と発言順序」参照）

- ①Zoom 参加「団体」；「ハンズ・プレイス 竹林伸子」「野川のえんがわ こまち 梶川朋」
（特記）Zoom 会議の設置に関しては、「野川のえんがわ こまち」梶川朋さんの多大なご尽力を頂きました。
- ②欠席 6 団体；
 - ・生活協同組合 コープみらい
 - ・東京土建一般労働組合 狛江支部
 - ・東京すずらんの会
 - ・社会福祉法人狛江福祉会 こまえ苑
 - ・NPO 法人 こどもの遊びと育ちをささえる会・狛江
 - ・3 色パステルアート

■ 配布資料：

- ①フードバンクの「活動案内」資料、 ②参加団体と発言順序
- ③フードバンク活動でつながる 狛江の団体交流会 2022 年 10 月 28 日

■ 参加団体と発言順序：

	カテゴリー	団体名	役職	参加者 1 (敬称略)	参加者 2 (敬称略)
	主催	NPO法人フードバンク狛江	副理事長	吉田 栄	
	共催 行政	狛江市福祉相談課	課長	宗像秀樹	
	主催	NPO法人フードバンク狛江	理事長	田中妙幸	
	行政	狛江市自立相談支援機関 こま YELL		指川和恵	谷地田真理
1		狛江市子ども政策課	課長	山口敦史	
2		狛江市教育支援センター スクールソーシャルワーカー		寺澤美穂	舟橋久美子
3	生協	東都生活協同組合	組織運営部	伊藤明彦	
4		生活協同組合パルシステム東京 狛江センター	活動長	渡辺茂雄	
5		多摩南生活クラブ生活協同組合		木戸祐樹	
6	フードドライブ 協力	社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会	事務局長	小楠寿和	
7		狛江市市民活動支援センター こまえくぼ 1234	センター長	大山寛人	
8		社会福祉法人正吉福祉会 こまえ正吉苑 (二番館)	施設長	安諸剛志	原田 結
9	フードドライブ 実施団体	狛江市社会福祉法人連絡会	狛江保育園 園長	富永浩正	
10		狛江市商工会青年部	青年部長	朝倉 慎	
11	食品や寄付で 支援	天理教江東分教会		川合広樹	
12		一般社団法人水澤		水澤弘之亮	
13		狛江三田会		高橋由紀子	
14		おてらおやつクラブ 高野山真言宗 華嚴院	副住職	矢田弘雅	
15	子ども食堂系 団体	みんなの居場所		佐々木貴子	山口ミツ子
16		こどもの多摩里食堂		松山佐登子	西尾 圭
17		ごはん+居場所 おかえり		宮川裕子	青木香奈
18		スペース 102 月末食堂		市原広子	
19		コスモスこども・おとな食堂		吉野芳子	内田弘子
20		こども食堂ひかりっこ		吉田輝也香	

団体交流会 2022.10.28

21		こまこま☆子ども食堂		富澤 舞	
22	高齢者支援団体	NPO 法人狛江共生の家-多麻	理事長	河西信美	
23	障がい者支援 団体	社会福祉法人光友会 ひかり作業所		松田憲明	
24		NPO 法人さつき会 グループホーム朋		長門 武	
25		NPO 法人えるぶ		小林秀行	
26		一般社団法人陽向会 ワークひなた	理事長	青木博行	
27		ハンズ・プレイス		竹林伸子	
28	子ども子育て 支援団体	野川のえんがわ こまち		梶川 朋	
29		タルトタタン		田頭知葉	
30	生活困窮者支援 団体	こまえ派遣村	代表	岡村透純	
31		困りごと相談会		平井里美	松崎淑子
32		一般社団法人自立支援ホームねこのて	代理(監事)	吉田 栄	
	主催	NPO法人フードバンク狛江	副理事長	中島信子	

■ 交流会議事録：

司会：NPO法人フードバンク狛江 事務局長 田中究

狛江のフードバンク活動で繋がる団体交流会を開催したいと思います。

連絡事項ですが、休憩なしでやりますので途中にトイレに行きたい方は、その都度退席していただいて結構ですのでもよろしくお願いいたします。

それから配布資料なんですけれどもえっと私どもの方から、まず「団体紹介のこの冊子」があります。それからフードバンクの「パワーポイントの資料」があります。

あと、それぞれの団体のチラシも配布させていただいていますので、ご覧いただければと思います。

今テーブルにある、名札はそれぞれ外側を向けていただいて団体様分かるようにしていただければと思います。

また、入り口のテーブルのところに、子育て応援の手書きの返送アンケートと、児童文学の作家であって私どもの副理事長の中島信子の著書があります。皆さんご存知かと思うんですが、ひとり親家庭、LGBTQ、ヤングケアラーを題材とした作品です。見られた方もいらっしゃるかと思うんですが、今日、販売するわけにはいかないんですけれども、ご興味のある方はぜひご連絡いただければ、送らせていただきますのでよろしくお願いいたします。

<参考>-----

LGBTQとは、Lesbian（レズビアン、女性同性愛者）、Gay（ゲイ、男性同性愛者）、Bisexual（バイセクシュアル、両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー、性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人）、QueerやQuestioning（クイアやクエスチョニング）の頭文字をとった言葉で、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称のひとつとしても使われることがあります。

※Qを表す「クイア」は、もともと「不思議な」「風変わりな」「奇妙な」などを表す言葉で、同性愛者への

団体交流会 2022.10.28

侮蔑語でしたが、現代では、規範的な性のあり方以外を包括する言葉としても使われています。「クエスチョニング」は、自らの性のあり方について、特定の枠に属さない人、わからない人等を表す言葉です。日本における LGBTQ の割合は、調査機関・調査方法によってデータにバラつきがありますが、現在では約 3%~10% と言われています。

-----< 終 >

NPO 法人フードバンク狛江 副理事長 吉田 栄

[開会の挨拶]

皆さんこんばんは、見てみても分かる様に、32 団体と Zoom により 4 名と多くの方が参加しております。一堂に集まるのは 3 年ぶりでございます。フードバンクはもうご存知の通りでして、食料を回収したあと個人や団体に配っております。お互いに無くてはならない存在です。

私たちの合言葉である「もったいない」を「いただきます」という、真心のリレーを行っているわけで、そういった意味で 32 団体がそれぞれ顔をあわせることだけでも意味のあることだと思います。

今日は 10 月のお忙しい中、時間も非常に短くて十分な交流はできませんが、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

狛江市福祉相談課 課長 宗像 秀樹

あらためまして皆様こんばんは、本日は大変たくさんの方々にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

フードバンク狛江さんと私共の関係でございますが、まず個人の方、各企業・団体様の方から寄贈いただきました食料をフードバンクさんを通じまして、わたくしどもの方に生活困窮で相談されているご家庭および、あと学習支援に参加いただいている子供達に、例えば今の時期のハロウィンですとか、クリスマスといった時期にお菓子とか飲み物を提供していただきまして本当に喜んでいただいております。

今日ご参加いただいている皆様方には子供たちの支援としまして、食事の提供や居場所の提供、そして高齢者障害者の支援、生活困窮者の支援といった形さまざま形で狛江市の福祉行政の方にご支援いただきまして本当にありがとうございます。

今後ともこういった関係を続けていけるように、是非ともお願ひしたいと思ひます。本日よりお願ひします。

NPO フードバンク狛江 理事長 田中 妙幸

こんばんは。皆様金曜日の夜、お仕事や活動を終えて来てくださったことに心から感謝申し上げたいと思ひます、ありがとうございます。

私の個人的なことを話して申し訳ないんですが、実は 4 月末に脳間梗塞でちょっと倒れまして、半年ほど休ませていただいております。それなのにこの間本当にここに来てくださって皆さんや、団体のメンバー本当にフードバンクに関わって支えてくださったことに、改めて感謝でいっぱいのお想ひです。

今日ここには必ず行きたいと思う気持ちでリハビリに励んでまいりました、ちょっとまだふらつきがあるので座って説明させていただきます、失礼いたします。

「もったいない」を「いただきます」へつなぐフードバンク狛江では、食料支援は、寄贈食品を困窮者支援に活かすフードバンク活動をしています。

アメリカの本拠地と違って日本では、「善意の寄付で訴えられても罰せられることがない、というビル

団体交流会 2022.10.28

エマーソン法」という法律が、残念ながらまだできておりません。その為か社会貢献の意識からか、企業さんは比較的良いものを下さっているかなと思います、もちろん賞味期限が迫っているようなものを下さるのですが、そして団体さんからは非常に多いのは防災・備蓄品などがよく入ってきます。

一般家庭からは、家庭に眠っている食品や購入した食品の寄贈がとても多いです、「孫に買ったついでにフードバンク狛江の分を買って送ってあげよう」と言う、暖かい心が込められて入ってくることも結構ございます。

食品の回収保管、賞味期限をチェックして提供できるようにするのが私たちのミッションです。そしてフードバンク事業も地域の福祉に取り組むような団体さん、今日も子ども食堂さんや他団体の方も来てくださっているんですが、地域の社会貢献をしておられるような団体さんで商工会さんなどですが、ぜひ食品を活かしていただきたいということで提供することもございます。

食のセーフティネット事業というのは、これから後お話をされますが、こま YELL さんから食料支援が必要な個人世帯の依頼書をいただいて、月曜日と木曜日に市庁舎の作業所で食品セットしております。狛江市とは食料支援の連携協定を結んで、場所の提供と周知協力をいただいています。

もう一方、給食の無い時期の子育て応援は「ひとり親世帯」、「就学援助受給世帯」に市の「子ども政策課」さんから夏は児童扶養手当現況届と、「学校教育課」さんから就学援助受給決定通知などに同封してもらい、冬は医療証送付時に「ひとり親世帯」へ周知し、「ふたり親世帯」へは冬には市から送る書類がないので夏につながった「就学援助受給世帯」へ周知します。フードバンク狛江の食料支援を2018年ひとり親世帯と、ふたり親世帯へは2020年から広げました、この夏の子育て応援には、204世帯に提供しました。給食のない時期の子育て応援は、ひとり親さん、ふたり親とも一定の収入以下の世帯に提供しています。

フードドライブは食べ物を集めて回して提供していくという意味で「ドライブ」って使われるんですが、フードバンク狛江では買って寄付をしてくださる方もたくさんおります。

狛江社会福祉協議会のご尽力で、市内6ヶ所にフードドライブケースを置くことができています。そしてイベントは、なかなかコロナ禍で開かれてこなかったんですが、昨年に続き「暮らしフェスタ」が今年も行われました。今年は市民から109キロもの食べ物が集まってきました。広がってきたなと本当に嬉しく思います。そしてフードドライブで支援してくださっているのは東都生活協同組合様、パルシステム東京狛江センター様もフードドライブの取り組みで支援をしてくださっています。

また今日も来て下さっている市の社会福祉法人連絡会様、商工会の青年部様にも、昨年に続き今年もフードドライブの支援を受けております、ありがとうございます。

そして最近では、ダイエーグループの6店舗で、フードバンクへの寄贈に買い物に来た方が一品フードドライブしてくださるようなケースを自前で作っておいてくださっています。

皆様ご存知でしょうか。女性が体操や筋トレに行く、カーブスの6店舗が利用者の皆様に呼び掛けて年間2回の寄贈支援をいただいています。

また買っての寄付については、市内・市外、共に個人の方が多数おられます。「こんな少しでごめんなさいね」っておっしゃるんですが、生協さんの組合員さんからの寄贈もそうですが、バラエティー豊かに、調味料といっても本当にいろんなものが入ってきて助かっています。賛助団体の「3色パステラート」、3色のパステルで臨床のツールとして絵を書く「レシピ」を売ったお金で私たちの団体に賛助団体としての会費の支援と、「田中さん、今月何が足りない」と聞いてくれて、「子育て応援用の甘口カレーが足りないのよ」と言うので、買って届けたり送ってくださいます。

さらに今日も来てくださってる天理教江東分教会さんが、フードドライブ、買っての寄附を、そしてお

団体交流会 2022.10.28

金の寄付やボランティアまでして下さって本当に助かっています。

そして一般社団法人水沢様からも、今日はお仕事で遅れて来られるんですが寄付を毎月いただいていますし、今日来てくださっている「狛江三田会」様、ここからも本当によくご寄付をいただいて、なんとか私たちが活動しているのは、こんな人達の大きなご支援のおかげだなと思います。ボラン広場東京っていうのは NPO 法人の生協です。

「東京すずらんの会」は、福島支援で福島のコメを買い付けてうちに寄付して下さっています、今日も来てくださっている「おてらおやつクラブ」、下の説明をぜひ皆さん資料を読んでください、町田の華厳院様は、仏様のお供え物をおさりの供物を頻りに果物・お菓子などを送って下さっています。こま YELL や子育て応援に、もう本当に喜ばれていて、ありがたいです。北区の正受院様もお菓子を送って下さっています。

コロナ禍のこま YELL、行政と連携した事業、こま YELL を通じた食料支援は、コロナ前、2019 年依頼月件数の平均が 56 件でした。ところが昨年 11 月最多を更新して 153 件になります、この春からは少し落ち着いて 80~90 件ぐらいに落ち着いてきましたが、2023 年 1 月から貸し付けの返済が始まったりするので、どうなっていくか本当に困る方が少ないといいなと思います。毎週利用したいっていう人たちがコロナ禍で増え、食料支援の期間や必要かなどは、こま YELL の支援相談員が決めています、アンケートに 12 ヶ月や 30 ヶ月継続したケースがありました。なかなか抜けていくことが厳しい状態というのもあるのかなと思いましたし、狛江市では生活保護件数は増えてないのは、ハードルが高いのかなって思ったりします。

この写真は「こま YELL」学習支援と子ども政策課の学習支援で提供したお菓子・飲料の写真です。年 4 回提供しています。お菓子や飲料をあげて、宗像課長様からお話があったようにその写真です。

「見ようとしないと見えない貧困」ということで取り組んできた、子育て応援や「お渡し会」についてもお話ししたいと思います。

実は 2017 年、狛江市が児童扶養手当対象世帯へアンケートを実施し 160 世帯からアンケートが帰ってきました、そのうちも母子世帯 148 世帯が 100 万円未満、100 万円台で子育てしてるということが分かりました、私たちはもう驚いて小・中学校の訪問をして校長先生に会い、食料支援の申し込み案内の封書を渡してきました。校長先生から「お宅困っているの？」とは聞けない、「全校生徒に案内チラシを配れないの?!」と言われ、全校生徒の配布分も持っていきましたが、手が上がりませんでした。「こま YELL」さんの相談世帯に「ひとり親」さんが増えるかなと思っていたら 2018 年 11 件で、それほど増えなかったんですね。やはりお子さんを連れて相談に行くというのはとてもハードルが高いんだと思います。

そんな中、こども政策課さんの同封周知の協力を得て、2018 年「ひとり親」に対して子育て応援の食料支援が初めて開始できました。提供世帯は、最初の 2018 年は 44 世帯でした。2020 年は就学援助受給世帯（ふたり親世帯）まで対象を広げ、107 世帯に増え、今年の夏、私はもうダウンして本当皆さんに任せっぱなしだったんですが、なんと 204 世帯から手があがったんですね。それでスクール・ソーシャルワーカー、今日も来てくださってるんですが、紹介で申し込まれるケースもあって学校が電話してもなかなか出ない方がちゃんと受け取りに来られたりしてるんですね。スクールソーシャルワーカーさんに「受け取りに来られたよー」なんて電話したりすることもございます。ヤングケアラーこれはこま YELL さんつながっているヤングケアラーさんなんですが、上のお子さんが取りに来て「あー、これこの方だな、こま YELL さんが言ってた方だ」と思って、「下のお子さんの分もお菓子持って行って、子供だましでごめんね」って、上のお子さんに渡したりします。そんな関係で私たちは、フードバンクをやっています。

団体交流会 2022.10.28

コロナが始まって産地を応援するために、いろんな生協さんがお米を買い付けて寄付してくださっている。そして企業からも入ってきます。ちょうど夏・冬・春の休みじゃない時に入って来たものを、うちのスタッフやボランティアさんが一生懸命チェックしてくれてお渡し会をします。それが今年は5月6月10月にありました。10月は載ってないんですけどなんと94世帯から手があがりました、2時間ぐらいで本当に上手に渡して行くので、いつも感心します。

コロナ禍でのアンケートの切実な訴え、読んでいきます。

「自営業で仕事が減りました。コロナが落ち着いても仕事量が増えない。新しい生活新しい時代に向けて仕事を変えないと、と思い不安です。なんとか暮らしてはいけていますが貯金などまったくできず、子供もいるので将来の不安です。派遣で勤務しておりますが、会社ガリストラを開始しており正規雇用でないためいつ契約が終了するかハラハラしております。」「2ヶ月仕事の一つが休業になり、ほぼ給料が受け取れませんでした。お金がない、11月で貯金が底をつきました。仕事のシフトが減り収入が不安定なので気持ちに余裕がありません。」「子ども共々コロナに負けないように気持ちをしっかり保ちたいです。不安なことしかありません。自分たちの生活が今後どうなっていくのか常に不安感があります。」

時間もないので少し割愛します。写真はおすそ分けお渡し会や配送でない直接お渡ししている写真です。提供食品のセットなど大変な作業ですが、スタッフが準備して、ボランティアさんや役員も手伝って2〜3時間でとてもスムーズに渡していっています。「すごいなっ!」と本当見ていて思います。「線グラフ」の方は子供の数です、そして「棒グラフ」の方が世帯数です、今年は204の夏から始まり、まだ冬や春が終わっていませんから、このグラフに対応しておりません、グッとまた上昇線を描くと思います。こんな感じで、お困りの方たちがいるんだなと思います。

「このような支援は経済面だけじゃなく、狛江市の私たちのような家庭を親身になって心配してくださる人々がいると、精神面でも非常に支えていただいています。夫が他界して、息子には片親、経済的困窮、死への悲しみの負い目を感じて欲しくないで、これからも必死で生きて行きます。」「経済的に非常に厳しいために申し込みました。開封したとき本当に嬉しかったです。親族含めほかの方から助けていただくことがないので涙が出ました。」「いただいたものもちろんですが一人じゃないんだなという気持ちになれて嬉しかったです。大切に頂きます、ありがとうございます。」「孫を預かって2年目になります。父はなく母親も今年、他界しました。年金暮らしの私どものこの時点は大変だったりします。孫と一緒に楽しみながら箱を開けました。本当にありがとうございます。普段はあとまわししがちな蜂蜜紅茶、お菓子が丁寧に詰められていてとても嬉しく温かい気持ちになりました。子供と一緒に品物を出しながらいつか恩返ししていこうねと言葉を交わしました。ですからどんな形でも人の気持ちが温かくなるようなこと私もして行きたいと思います。」

今年スタッフが工夫して、「お絵かきを持ってきてくれたらもう一つお菓子がおまけに着くよ」って、言ったので、この子供達が絵をもって来てくれました。市庁舎展示にも使わせてもらいました。

子育て応援を始めた2018年から3年5年経って、「子どもさん大きくなって」と声をかけあいます。子育て応援が心の交流の場になって、「大変だけれども、これはやって良かったなあ」と本当に思っています。

ご清聴ありがとうございます。一番役員で若い69歳の私は、こんな事になりまして、本当にフードバンク狛江も持続可能性をこれからどう取っていくのか、喫緊の課題です。ここにおられる皆様に、フードバンク活動を地域の仕組みにして行くためにも、尚いっそうの、ご支援ご協力をお願いして私の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

<参考>-----

米国には連邦法にビル・エマーソン食糧寄附法 (Bill Emerson Good Samaritan Act) なるものがあり、提供した食品が事故を起こしても故意でない限り、提供者は責任を問われない。

この法律があるためフードバンクの主催者は安心して事業を展開できる。法律施行以来、適用事例はまだないが、この法律があるからと言って寄付が増加するわけではないという事も事実である

フードドライブ 【英】 Food Drive

フードドライブとは、家庭で使いきれない未使用の食品を持ち寄り、まとめてフードバンク団体や、地域の福祉施設、子ども食堂などに寄贈する活動のこと。

英語の「drive」には「運動」の意味があり、フードドライブ (Food Drive) は「あまった食べ物を寄付する運動」をさす。集められた食品は、経済的に困窮している人たちへの支援に活用されるため、この活動は、「もったいない！」を「いただきます！」に変えるチャンスと言える。

-----<終>

狛江市自立相談支援機関 こま YELL 指川 和恵

「こま YELL」の指川と申します、よろしくお願ひします。

まず何より理事長がお元気でこの会議に参加していただいたことがすごくありがたいです。ほとんどもう理事長がご説明していただいたので「こま YELL」の内容というよりも、ここまですっと支えてきた流れを少しお話させていただきます。

私は平成 28 年に「こま YELL」に来たんですけど、それ以前の 27 年からフードバンクさんと繋がっておりまして、その当時は田中家のご自宅に行き、いろんな食料とかがある中で、その人の家庭に合わせていろんなものをチョイスして、普通のパッケージを作っていた。そんなところで本当に一年間で何件かという辺りだったと思うんですけど、それが今お話しいただいたように、1 回だいたい 10 件、月曜木曜で大体 10 件 10 件なので 1 カ月で 80 軒ぐらいあります。

先ほど言われたように去年は本当に 100 件近くやはりこう依頼がありまして、今少しまあ落ち着いたかもしれないんですけども抑えている部分もあり、一貫してずっとあの流れてるのはあの田中ご夫婦のその利用者さんに対しての思いで、一つ一つメッセージを書いていたたりとか、そのお気持ちが全部ボランティアさんに流れていて、もう一つ一つのパッケージが本当にありがたいなあっていうふうに思えます。

で、普通ですと保存食なんですけれども、今日あの町田の方からいらしていただいているお寺の副住職さんいらっしやっているんですけども、果物が 4 時ぐらいに来るから待っててね、みたいな感じで、すごく皆さんあの本当に喜ばれています。生鮮食料品、果物は本当に特別な食品にはいるかもしれないんですけども、本当にありがたいです。ありがとうございます。

そういうことで家庭の状況に合わせての支援をしていくことが大前提ですと続けているんですけども、安否確認ということでアウトリーチさせていただいた時に、えっと何回かこう連絡をとっても取れない、安否が分からないというので、もしかして食料も食べられていないかもしれない。そんな時にこちらの方でセットして訪問する時にも利用させていただいています。

あと緊急支援っていうのは、通りすがりの方も実は狛江にフードバンクさんがあるっていうのをホームページかなんか調べたりして、ここに行けば食料いただけるかと言って、この前、武蔵野市だと思うんですけど、自転車でいらっしやって食料をいただければっていうことで、いらした方がいるんですけれ

団体交流会 2022.10.28

ども、本当に一回きりの支援になる可能性も高いんですけども、まあそれでも食料いただけるんだっただらここに来ようと言う方もいらっしゃるということです。

で、最後が学習支援でお子さん達にお菓子を配布っていうことで、先ほど写真もありましたけれども、夏休み、今回のハロウィンで12月のクリスマス、3月の進級進学の際に4回合わせていただいております。本当に一つ一つの袋も愛とその行事に合わせさせていただいてセットをしていただいているという状況で、本当に心がこもっているフードバンク狛江さんだないふうに思います。今後ともまたよろしく願います。

<参考>-----

アウトリーチ (outreach) は、英語で「手を伸ばす」という意味。元は社会福祉の分野で、助けが必要であるにもかかわらず自ら申し出ない人たちに対して、公共機関などが積極的に働きかけ、支援を届けることを指した。困難な状況にありながら支援の必要性を自覚していなかったり、相談意欲がなく支援拠点に来ない人の場合、そのまま取り残されたりすることが多かったため、潜在的なニーズを発掘する手法として開発された。

-----<終>

狛江市こども政策課 課長 山口 敦史

ご紹介いただきました、狛江市のこども政策課課長の山口と申します。日頃より皆さんにおかれましては狛江市の子育て行政にご協力いただきましてありがとうございます。この場をおかりしまして、感謝を申し上げます。

コロナ禍で2年間開催できなかった、フードバンク活動でつながる団体交流会が、今もお話ありましたけれども3年ぶりになって開催できることを私どもとしましても、うれしく思っているところでございます。

先ほど理事長からご紹介いただいてしまったんですけども、子ども政策課ではひとり親家庭の学習支援の事業を毎週木曜日夜に行っておりまして、でそちらにイベントの際に、昨日もちょうどハロウィンイベントがあったものですから、お菓子の提供をいただいて、他にも先ほど「こま YELL」さんからもお話ありましたけれども、夏休みとクリスマス、そして進級時に、同じくご用意していただいております。

また、先ほどご紹介ありましたけれども、給食のない時期の子育て支援っていうことで、こちらも夏休みと冬休み、春休みの食料支援、実施されていますので、児童扶養手当の話がありましたけど、対象世帯を把握していますので、そちらにご案内を送らせて頂いて、ご協力をさせていただいているというように、市として行わなければいけない支援に、逆にフードバンクさんにご協力をいただいているような状況でございます。

市といたしましてはですね、長引くコロナ禍と原油価格の高騰ということで、今月から高校生以下の世帯2万円、1人当たり2万円の支給始めたところなんですけれども、そちらは微々たるものですので、ここにいらっしゃる皆様方のご協力があって、子育て施策が成り立っていると思いますので、引き続き皆様にご協力いただきたいと思います。よろしく願います。

狛江市教育支援センター スクール・ソーシャル・ワーカー 寺澤 美穂

皆様、日頃より大変お世話になっております、本当に感謝しております。

スクールソーシャルワーカーと言う事で、教育支援センターに私と舟橋の方が、いつもおります。私たちのスクールソーシャルワーカーの仕事としては、それぞれ小学校中学校に訪問しまして、こちらで不登校

団体交流会 2022.10.28

のお子さんでしたりとか、扶養困難のお子さんを、地域の方と学校を繋げる、あとは色々な支援につなげるといような、お仕事をさせていただいております。

その中でやはり、コロナ禍でなかなかちょっと経済的に厳しいという方たち、子育て世代の方たちに、「こま YELL」さんを通して、いつもフードバンクさんの食料を提供していただいたりとかで、大変いつもお世話になっております。

そういう中で、いつもやはり、どれだけの子供たちがクリスマスの贈り物、食べ物が嬉しかったかって言う声を直に聞かせて頂いて、どれだけ価値ある活動かと言う事が身に染みております。この場をかりて本当に感謝申し上げます。フードバンクさんも、本日来ておられる子ども食堂の方にも、いつもお世話になっておまして、子供たちの笑顔があるのは本当に皆様のおかげだと思っております。

今後とも是非とも、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

東都生活協同組合 組織運営部 伊藤 明彦

東京生活協同組合の伊藤と申します。今日はあのこういった会議あの声掛け頂きありがとうございます。東京生活協同組合はフードバンク狛江さんとのつながりとしては、2018年の1月から生協の配達時に組合員に声をかけて、食品を集めるというフードドライブを年に2回やっておりますが、それで連携協力をさせていただいています。

集まった食品はそのままお渡しするのではなくて、ちょっとお手をかけていただくんですけど、調布にセンターがあるんですが、そこまで来ていただいて集まった食品を分けて、重量も測って、そんな作業も一緒にやって頂いてます。組合員にその場にこういう機会なのでということで、声をかけてボランティアの手伝いということでその作業にも参加していただいたりしております。

こういった連携協力のところで、当然組合員にチラシを配布することで、このフードバンクさんや、フードドライブの取り組みのことが、やっぱりまだまだ知らない人がたくさんいますので、うちの場合は組合員に声をかけて、ええ判ってもらって、年に2回しか、フードドライブやってないんですけど、あの地元にあるフードバンクさんを知っていただいて、もっといろんな協力ができるかなと思っております。

配達する職員も通常の配達のところその食品を集めるんですが、やりがいを感じてこういう事にこう係ってるっていう、そういう職員もやっぱり居ますので、この連携協力はとても東都生協にとってもありがたく感じていますので、今後とも引き続きよろしく願いいたします。

生活協同組合パルシステム東京 狛江センター 活動長 渡辺 茂雄

ただ今ご紹介頂きました、パルシステム東京の渡辺です、よろしく申し上げます。パルシステム東京の狛江センターの方に、昨年着任させて頂きました。

昨年は、コロナ禍で産地としても捌けないお米がちょっと出てしまったので、組織として買い上げさせて頂いて、いろんな団体さんのほうに寄贈させて頂きました。今年も、昨年ほどではないんですが（買取り米が）ありました。それはちょっと本部任せっていうところもあったので、今年は、写真を出していただいているように、センターとして企画しまして、組合員に声をかけさせていただき、ご家庭に余っているものを、持ってきていただくっていうの取組みを、させて頂きました。

今年のその当日は天候の方があまりよくなかったんですが、フードバンク狛江さんに70キロ強ぐらいでしたかね、食材の方を寄贈できるぐらいの形になりました。こういった企画を団体さんと組織の間と、あと実際に利用しているし組合員も中にいまして、みんなでちょっと協力して何かやりたいっていう形でこういったことをやりました。天候は悪かったんですが、これからも、またやってやりたいなとい

団体交流会 2022.10.28

うような声が上がっていますので、引き続きやっていきたいと思っておりますので、その時はご協力のほうよろしくをお願いいたします、ありがとうございます。

多摩南生活クラブ生活協同組合 木戸 祐樹

ご紹介にあずかりました、多摩南生活クラブ生協、町づくり政策担当の木戸と申します、よろしくお願ひします。

実は就任が今年の4月からということで私は素人です。皆さんの顔を見てるとすごくプロフェッショナルの、すごく雰囲気圧倒されてしまうみたいなんですけど、私共の寄贈品の内容としましては、今ご紹介していただいたように、鶏卵が主な供給物というところなんです。鶏卵に関しては基本まあフードロス対策ってところで本来であれば動きたいんですが、今まだ過剰に生産した部分について、充当っていうような形で供給させていただいているのが実情で、理想とかなり程遠いところでもあるのですが、非常に喜んでいただいているので、今後も継続していこうってことで合意されてます。

今後なんですけど、やっぱり長く続けていくことも重要なんですけど、やっぱりこの政策、この社会問題というのは地域福祉の政策の中でも結構重要な問題だなと思っていて、特に困窮世帯だったりとかいうところの掘り起こしもそうなんですけど、そうじゃなくて一般の通常の世帯、まあ皆さんですね、皆さんのご家庭に眠っている食品っていうのをどれだけ掘り出して、必要な世帯に供給できるか、そういったマッチングのところがすごく重要になってくるんだと僕は思ってます。そこにしっかりと焦点をあてて、今後活動を展開して行きたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。

社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会 事務局長 小楠 寿和

狛江市の社会福祉協議会の事務局長させていただきます、小楠と申します。フードバンク狛江をはじめ、本日の交流会にご参加いただいている団体の皆さんには、日ごろ当会にご協力いただきありがとうございます。

久しぶりに参加して田中理事長の元気なご様子を見て、正直安心しました。当会とフードバンクさんに関しては常設のフードドライブの設置と、間接的には事業を通しての団体の紹介ですとか、させていただいております。

またフードバンク狛江さんにつきましては、当会が数年前から行っている福祉カレッジという一般市民向けの講座がありまして、その中の生活困窮のところのテーマで、講師の方をお願いしております、毎回活動を通じた生の声を受講生の方にお話しいただいて感謝しております。

そういった人材の育成の方も、今後社会福祉協議会として力を入れて行きたいと思っております。それとフードバンク狛江さんをはじめとして参加団体の皆さんにも、是非とも活動紹介の講師とかをお願いすることもあると思っておりますので、今後とも、協議会へご協力いただければ、との思いです。

狛江市市民活動支援センター こまえくぼ 1234 大山 寛人

皆さんこんばんは。狛江市市民活動支援センターこまえくぼ 1234 の大山です、よろしくお願ひします。

日頃からボランティア市民活動に熱心な皆様にご協力いただきまして、本当にありがとうございます。フードバンクさんとは、今ご紹介いただきましたけれども常設で食品寄贈ボックスを窓口の近くに設置させていただいております。

実は土曜・日曜に当センターを開設していますので、親子連れで食品を寄付していただく方がとても多いです。こうした関係で来た方に声をかけたりすると、「何かあのこういったことから少しできることが

団体交流会 2022.10.28

あるかなと思って来ました」と、そういうお声をいただきまして、今現在いろんなボランティアがあるので見てください、と言うことで、それをきっかけにいろいろ見ていただいて、あ「こんな活動しているなら行ってみようとか」ですね、あの「こんな団体があるんだ、知らなかったわ」なんて話をするがあります。

フードバンクを通じて、あの食品事業というところからですね、新たなボランティアとか市民活動ということに、つながっているかなと思いますので、引き続き一緒に進んでいければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

社会福祉法人正吉福祉会 こまえ正吉苑（二番館） 施設長 安諸 剛志

ただ今、ご紹介ありました、こまえ正吉苑二番館 施設長の安諸（やすもろ）と申します。本日はよろしく願いいたします。「こまえ正吉苑」の方が歴史がありまして、地域の皆様には親しみやすいかもしれませぬ。私はちょうど昨年の8月に施設長として就任して、フードバンクとの関わりは、本当に昨年度からスタートしました。

まあ施設としては、7年目になりますけれども、私ども社会福祉法人という、運営している者から見るとやはり地域密着というところで、地域の課題を一緒に考えていく、それは私ども法人の理念の中にもあるんですけれども、まあ5つの願いというものを、全部ひっくるめて一つの言葉で言うと、まあ「地域の方々、年齢問わず困っている方には手をさしのべなさい」というような内容になっています。

それを、働くスタッフ一人一人が自覚をして、施設の中だけでなく地域の方にも目を向けた、そういった優しさであったりとか思いやりのある職員を、今一生懸命、私は育てながら、地域との係わりというところで、地域の課題はこういうものがあるよと、いうものを伝えていくのも、まあ施設長の一つの夢かなというふうに思っています。

施設には地域交流スペースというものがありますが、残念ながらコロナ禍でこの3年間は活動が中止となっております、実際であれば地域のお子様やご高齢の方々もまあボランティア活動以外にもですね、ええ無償で活動できるスペースがあるんですけども、今後まあウィズコロナということで、すこしづつそういった地域交流スペースが使える時代が来ると考えておりますので、ぜひそういった時にはお声をいただければと思います、今日は名前を顔と覚えていただければと思います。

狛江市社会福祉法人連絡会（狛江保育園園長） 富永 浩正

ただいま、ご紹介いただきました、狛江保育園で園長をしております富永と申します。

当連絡会の方なんですけれども、コロナ前に発足してまだまだ新しい連絡会ということで、まだご存知の無い団体さんも多いと思うんですけども、地域に根差した、社会福祉法人が連絡会といったところで、協力し合っておりますので、ぜひ何らかの形で、皆様と協力しながら地域の発展を目指していければなど、いうふうに思っております。

また、法人連絡会の方はフードドライブをはじめ、「何でも、福祉、何でも相談窓口」といったような取り組みも行っておりますので、生活困窮の世帯であったりとか、そういった場合であったり、まあ「高齢者の受け入れ先」、「子どもの育児に困ったよ」って、本当に何でも聞く窓口を設定しておりますので、各施設に困っている方がいらっしゃれば、「あそこ、そういう窓口やってるよ」って、いうのでご紹介いただければと思っております。

コロナ禍で活動制限多い中でございますけれども、皆様と協力しながらやって行きたいと思っておりますので、是非お力添えの方よろしく願いいたします

狛江市商工会青年部 朝倉 慎

皆様こんばんは。ただ今ご紹介にあずかりました狛江商工会青年部の本年度部長を務めております朝倉と申します、宜しくお願いいたします。

今ご紹介いただきましたように、私ども商工会の一部の組織になっておりまして、45歳以下の経営者が活動してる団体でございます。

今日はですね、ちょっと見えていらっしやらないんですけども、僕も青年会議所の方に元々所属をしておりまして、その青年会議所の活動のときに、フードバンクさんから、よく食べものですとか飲み物ですとか、ご提供いただいております、個人的にはやっぱどんな形でもいつか何かお返しができればいいなどという想いから、団体はちょっと変わってしまっているんですけども、青年部の代表にもなりましたので、何か一つお力添えできるような活動ができないかということから、フードドライブを昨年度から、実施させていただいております。

その私の任期が来年の3月、4月までになっておりまして、代が変わってしまうんですけども、青年部の活動の事業の一つとして、今所属しているメンバーには捉えていただいておりますので、また今は年一回ぐらいの開催にしかできていませんが、来年度以降も、より回数を増やしたりとか、定期的にできるように引き継いでまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

天理教江東分教会 川合 広樹

ええ、ただいま、ご紹介いただきました天理教江東分教会の川合と申します。よろしく申し上げます。

私たちが何かこうやって「結構に生活できている」ありがたさっていうのを、少しでも社会に還元したいなということで、みんなで何ができかなと考えている時に、たまたま「いなげや」の前で、フードバンク狛江というのをやってまして、飛び込みでいろんな話を聞かせていただいた時に、こんな素晴らしい活動があるのかっていうことで、「まあ少しでも何かの役にたてればいいなあ」ということから皆に声をかけて、食品だったりとか、今自分ができるものを、持っているものを、少しでもっていうことで、皆に声をかけさせてもらって、今も幼稚園のママ友ですとか小学校とか、そういう地域の方々にも少しずつ知っていただいて、そういう方々が自発的に、そういうところに寄贈出来ればいいなあ、という思いを持って、させていただいております。今後も微力ながら少しでも皆さん役に立てればいいなと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございます。

一般社団法人水澤 水澤弘之亮

どうも、こんばんは。一般社団法人水澤で、訪問介護事業所を運営させてもらっています、水澤弘之亮と申します。

で、ちょっと困っているんですけど、すごくこの関係性を説明するのが難しくて、何を説明したらいいのかなって今、正直悩んでいるところです。訪問介護事業所っていうのが地域とのつながりが未だほとんどなくて、どういうことをすると地域密着、地域とつながれるかっていうところを、考えてまして、その時にうちの職員でお母さんが居るんですよ。お母さんが居てお子さんが居て、で「結構その貧困の子供増えてるみたいよ」っていうところをちょっと聞いてましたので、いろいろ検索していくと、狛江にフードバンクってある、「あそう、フードバンクあるの、そうなん、じゃあ食品送ろう」っていう話をして、お米とかを購入して送ったらいいんじゃないかなっていう話を、会社の中でしまして、で、ご連絡をさせていただいたんですよ。

団体交流会 2022.10.28

で、「お米は結構あるかも」みたいな話になったんで、何ができるかなって改めて考えて、じゃ、寄附しようってところで、今継続的に寄附をさせていただいております。なんで寄附するのって結構聞かれるんですけど、お金って回すものだと思ってますし、僕らのこの福祉の事業って税金から成り立ってる部分だと思ってます。なんで、そのお金っていうのは特に税金だからこそ、回していこうっていう思いを持ってますんで、これからも、どうぞよろしく願いいたします。

狛江三田会 高橋由紀子

皆さん、こんばんは。狛江三田会の高橋と申します、

私どもの団体は、本当に親睦中心の団体でして、今までの皆様のお話を伺っていて大変気恥ずかしく、ここにあの参加していること自体が申し訳ないような感じなんですけれども、丁度コロナ禍のはじめの頃に、何か私たちもお役に立つことはないか、地域に還元できることはないかなと考えている時に、こちらのフードバンクさんの活動のご案内をいただきました。

で早速、会からはお金を寄付させていただき、また個人の会員としては、その後もその都度お品物をお届けさせていただいております。

ご利用者の方のお声を聞きますと本当に食品を届けていただいただけじゃなくて、自分たちがひとりじゃない、みんなが支えてくださっているという、その気持ちに本当に心強く思っているという、ご感想を、あちこちで読みまして、本当に、フードバンクさん素晴らしい活動をしてくださっているのだと思っております。本当にありがとうございます。

これからも、もっと会員に広く呼び掛けまして協力させていただきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

おてらおやつクラブ 高野山真言宗 華嚴寺 副住職 矢田弘佳

こんばんは。皆様方の高い志も何もないんですけれども、まず「お寺おやつクラブ」というのは何かと話しをさせてください。

お寺にいろんなお供物が上がります。でもお寺だけではなかなか回しきれない、配る先にも限りがあったり、お盆とか暮れとかやたら多くなってしまうたり、果物だったら、それこそ一日限りもあります。それを困っている方々に回すために、何宗とか関係なく、もっと言ったらキリスト教の方も入ってらっしゃるんです。そういう方たちの、供物を一旦本部に集めて送る、で始めたんですけど、そうすると大変なのでネットワークだけを本部で作る。華嚴院だったらフードバンク狛江さんというところで繋いでもらって、で、その仕組みを使って、華嚴院から物が直接届く。仕組みとしては情報が本部に行く。そんな風に誘ってもらって始めました。

で、今申し上げたようにお寺、週末ご法事が多いと、たくさんいろんなお供え物いただきます。特に果物は皆さん昔からの風習で上げてくださるんですね。ありがたい断るわけにもいかない、でも腐らせてしまうことも正直ありました。なので、送らしてもらって、しかもお寺おやつクラブさんは送料もいろんな大きな会社さんのスポンサーになってもらっているんで、割とタダで送らせていただけてることが多くて、なので、志がなくてもやり続けさせてもらっています。

あと自分のことで言うと、わたくしがいる華嚴院っていうのは、町田市の薬師池公園でご存知でしょうか。蓮が有名だったりします。あそこの中にある薬師堂、ここが大本（おおもと）で薬師堂があって、で、薬師公園になりました、私は薬師堂の分家の華嚴院におります。お寺に来るとお金がかかなくて、心が豊かになると思います。ぜひ遊びに来てください。明日から9日間、毎日薬師堂を開いていますので、ホー

ホームページからご覧ください。ありがとうございます。

みんなの居場所 佐々木貴子

皆さん今日は、本当に3年ぶりに開かれましたこの団体交流会に参加させていただきまして、こんなに大きな支援の輪が広がっていることに大変感動致しました。

このコロナ禍の中、私たちは一貫して活動がなかなか思う様に出来ない中、少し心が萎えておりましたが、今日久しぶりに田中理事長の熱い想いに接しまして、また勇気が湧いてきました、本当にありがとうございました。

私たちは、この会のネーミングのように「みんなの居場所」っていうことで、小さなお子様からお年寄りまでみんなが一同に会して、安心してホッとできる場所づくりを目指して活動してまいりました。原則的には月に一回、第2土曜日に、狛江の西川原公民館というところで、この名前は子どもたちと一緒にお食事を作って、それをみんな各世代の方たちと一緒に会食をして、また楽しくゲームをしたり、お話をしたり工作をしたりということをしておりましたが、残念ながらコロナの影響で、しばらく、それができないままにあります。

去年は本当に公民館も閉鎖されましたので、お料理作ることができなかつたんですね、そんなときも、市内で活動していらっしゃる方から場所を提供頂きまして、そこで買ったお弁当を会食している様な形でやっておりました。

大人の方からは、300円を頂いておりますが、子どもさんは無料でやっております。で、今後早くコロナが回復して一緒に食事作りが出来るような楽しい会ができればいいなと思っております、

また皆様のご支援、ぞよろしく願いいたします。

こどもの多摩里食堂 松山佐登子

こんばんは、「こどもの多摩里食堂」です。

3年前と比べるとずいぶんと団体の数が増えて、倍以上になってたことで、フードドライブと食の支援を通して、まあこんなに多くの方、フードバンクが発展されたというふうに思います。

私たちは、食の支援を受けている団体ですけれども、コロナの中で私たちの活動も随分と変わりました。以前は小学生を中心に、その兄弟や家族を中心にした子どもの居場所事業ということで、夕食を囲みながら、一人で食べるよりも皆で食べると、もっと美味しいって言うことをスローガンにしてやってきましたけれども、このコロナでそれができなくなりました。

特に2020年の春の学校の突然の休校で、給食が休止となって、学校の給食を学童保育の子供達に提供するという狛江市の独自の措置のニュースを聞きまして、学童の子どもたちだけじゃなくて、必要とする子どもたちにも給食を提供してほしいってことで、市役所のいくつかの部署にお願いしてきました。ところが、これが限界になっていることがわかりまして、これならばということで私たちは月に一回の活動ですけれども、食事を必要としている子ども達にお弁当を提供しようという活動に変えました。

で、こま YELL の皆さんや、社協の皆さん、福祉ソーシャルワーカーの皆さんのご協力をいただきながら、多摩里のフィールドナインで30食前後ですけれども、ささやかですけれども、一回の食事を必要とする子どもたちを中心に、提供してきました。

この長引くコロナの中で、私たちはそういう活動してきたわけですが、2016年にスタートしたんですけれども、多摩里という個人宅でやってきました。なかなか魅力的な場所でもよかったんですけれども、コロナの中ではなかなか個人宅での活動が無理ということで、今年度の4月から中央公民館に活動場所

団体交流会 2022.10.28

を移して、今活動やっております。 ランチ弁当が中心なんですけれども、それ以外に春休みや夏休み、あるいは冬には小学生を中心にしたイベントの活動を行っています。その際に、狛江のフードバンクさんからお菓子を頂きまして、大変喜ばれております。お世話になっております。

こんな感じで私たちの子ども食堂もなかなか通常の居場所事業を行う事は難しいんですけども、まあできることからやっという事で、月一回ですけれどもお弁当を中心にしてやっております。引き続きよろしくお願いたします。

ごはん+居場所 おかえり 宮川裕子

「ごはん+居場所 おかえり」の宮川と申します、よろしくお願いたします。

本当に田中さんが倒れられたって聞いて、どうなるのかなと思いましたが、今日のあのいつもの早口の田中さんにも、お話が聞けて本当にうれしいです。「おかえりなさい」と言いたいと思います。

で、私たちの団体は2017年創立なんですけれども、それ以前2015年ぐらいに、ある会合で「子ども食堂をやりたいと思ってます」と言いましたら、田中さんがすぐ来てくださって、あのお米なら幾らでも提供できますと言ってくださって、そんなことがあるんだと思って、それからのお付き合いです。

で、いつも食品提供を受けているんですけども、私たちの団体は子ども食堂ではなくて、共生食堂、子どもから大人までの居場所づくりを、食を介してやっている団体です。その他に、不登校の子どもを持つ親の保護者の会をやっています。だいたいフードバンクさんからは、お米、調味料、ジュース、お菓子などを頂いて、コロナ前は、私たちは誰でも来る人拒まない食堂をやってたんですけども、コロナになって、まず公民館が閉鎖されましたので、フードドライブをして、その後は、お弁当を配布しています。特に、前は貧困の家庭っていうことを対象としてなかったんですけども、それ以降はちょっと「ひとり親の家庭」の方を中心に、予約制にしてやっまして、今半数ぐらいは「ひとり親家庭」のお子さんたちで、とても喜ばれています。

今日はあの、こんなにたくさんの方の支援していただいている方のお顔が見れて、あのとても嬉しく思っています、今後ともよろしくお願いたします。

スペース 102 月末食堂 市原広子

いつもフードバンクから食品、お米や調味料、そしてあの時々ですけど、オペラをやっていた方からも頂いてやっております。

「スペース 102」という場所を自前で用意して、7年前に月末食堂というものを始めました、自前の場所ですので、閉鎖されたりした公民館の影響はないんですけども、やはりコロナ以降は、お持ち帰りのお弁当を提供するというをしています。

食材費をスペースで寄付していただいた物品をフリマ(フリーマーケット)のようにして販売のような形を取って調達をしております、とにかく調理されたものをみんなが食べるということが大事だということをモットーに、活動しています。

やはり、私が育った世代が食べてきたものを中心に作ったりしてますので、例えばあのとろろ汁とか、ゴマを山ほどいただいたときは、ゴマをすってゴマ団子にしたり、とかいうことを工夫して美味しいものを楽しく、おいしいねっていうふうに、食の体験をしていただくような事を目指してやってきました。

ええ特に貧困対策とかいうふうにしていないんですけども、シングル家庭が6から7、それから4人世帯が2つ、あと、最近5人という方も、出産5人目という方もしていますね。そのような方を、支えるという気持ちを持ちながら、普段は飄々(ひょうひょう)と誰でも、という形でやっております。また、玉

団体交流会 2022.10.28

川水害時にお金を送ったり、フィリピンの技能実習生の方にお金の支援などをしたり、幅広くさせていただいております。

これからもぜひ、フードバンクの食料で豊かな活動をして行きたいので、ご出席いただいております皆様に、本当にありがたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

コスモス こども・おとな食堂 吉野芳子

こんばんは、「コスモスこども・おとな食堂」です。

私たちは最近発足したんですけれども、スタッフもこじんまりで、食数もこじんまりです。で、あの皆さんあの「困窮」と言うことを、多く言われる方がいると、ちょっと私の食堂はどちらかというと、「地域交流」とか、まあなんか地域で顔の見えるつながりを作っていく、そっちのほうに重点を置いていきますので、ちょっと困っている方とかそういうことはあまり考えていなくて、でもそういう人たちが初めて地域センターに来たり、そういう活動をしたりっていうのが、すごく重要なことではないかというふう

に、このところ活動しながら思っております。

細く長く続けていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします

こども食堂ひかりっこ 吉田輝也香

はじめまして、「こども食堂ひかりっこ」と申します。

昨年11月にプレオープンいたしまして、今年1月より、月一回開催させて頂いております。

最初に、あの、フードバンクさんをお願いに上がった時には、だいたい30食から40食っていうことで、お話をさせていただいたんですけれども、ここ最近、ご近所のかた、親御さんに周知されたのか、80食から100食でオーダーを頂いております。で、食数が増えたときも、嫌な顔ひとつせず毎回、食品を提供してくださるフードバンクさんに心からいつも感謝しております。

引続き、ご支援頂けると幸いです、よろしく願いいたします。

こま☆こま子ども食堂 富澤舞

こんばんは、よろしくお願いいたします、

ちょっとこういう場が初めてで緊張しておりますが、よろしくお願いいたします。

今年の4月から、「こまこま子ども食堂」という、子ども食堂から始めさせていただいたんですけれども、「こまこま」っていうのが、うちが狛江市駒井町にあるので「こまこま」という名前を付けさせていただきました。

本業はと言うと、うちのスタッフはまあ30代40代の若手で活動させていただいていて、私も含めて現役の子育てママが中心に、子どもの支援といいますか、食の支援ということで、活動させていただいています。

で、活動は始めるに当っては、ママたちで地域の皆さんに、という思いで始めたんですけれども、こちらにも書いたんですけれども、私の主人が長年イタリアンのシェフを務めていて、主人にもどうにか力になっていただけませんか、というふうに相談したところ、気持ちよく引き受けてくださったので、最近ではイタリアンのお弁当と言うことで、お届けさせていただいております。

まあ、一応シェフなのでの衛生管理的にも食品のあの幅の広さというか、使えるものも、あの結構、多くいろんな食品をお弁当の中に入れてさせて頂けるので、子どもたちにも食の食育ということで、生きる喜びといいますか、食べるって本当嬉しいなあ、楽しんだっていうことを感じていただけたらなと思ってい

団体交流会 2022.10.28

ます。

このフードバンクタさんのおかげで、みなさんのおかげで、こうした活動ができることがスタッフ一同感謝しています、これからもどうぞよろしく願いいたします。

NPO 法人 狛江共生の家-多麻 理事長 河西信美

「NPO 法人 狛江共生の家」の河西と申します、

えっと、「多麻」っていうのは、運営しています「高齢者の共同住宅」の名前なんです。万葉仮名で「多摩川にさらす手作りさらさらに・・・」っていう、あの唄があると思うんですが、そこからイメージして、この「多麻」って一字を使った、高齢者の共同住宅です。

16 年前に作りまして、これも市内の高齢者が中心になって、将来の自分たちの一人暮らしになったときの住まいをきちんと確保したいね、っていうことで市民運動から始まりまして、オープンの直前に、あ、オープン後でしたかね、NPO 法人の法人格を取りまして、今運営を続けております。

当初の高齢者専用賃貸住宅という枠で、これら住宅確保の国交省管轄で始まった住宅だったんですが、その法律が改正されまして「高専賃」とか無くなってしまって、ええと 2 年前からサービス付き高齢者住宅に営業対応変更致しまして、今日になってます。

現在の 14 の居室がありまして、小さなお部屋で 25 平米以上、27 平米ぐらいありますので、バストイレ、キッチンがあります。ええ、その他クローゼットとかまあバリアフリーのあの木造の建物なんですけど、キッチンがあるために朝とあのお昼はご自分の食事を作るんですね。

それでフードバンクから頂く食材、あの柔らかい介護食を含めて、体調が悪い時などは、自分でそれで食事を作るということで、大変喜ばれていたり、あとやっぱり果物が大変に高級品になりましたので、なんか果物をくださって、とても感謝しております。

今後ともよろしく願いいたします、ありがとうございました。

<参考>-----

『万葉集』の中の庶民の歌「多摩川にさらす手作りさらさらに何そこの児のここだかなしき」

(読み方：たまがわに さらすてづくり さらさらに なにそこのこの ここだかなしき)

現代語訳；

「多摩川の水にさらして作る麻の布のように、さらさらに（ますます）あの子が愛しく思えるのはなぜなんだろう。」

「高専賃（高齢者専用賃貸住宅）」；

「高齢者専用賃貸住宅（高専賃）」ならびに「高齢者円滑入居賃貸住宅（高円賃）」は、以前に運用されていた制度の下での高齢者向け住宅を指します。平成 23（2011）年 10 月 20 日に「高齢者の居住の安定確保に関する法律」の改正法が施行されたことにより、現在は「サービス付き高齢者向け住宅」に一本化されています。

-----<終>

・・・<<ここで、Zoom が落ちたので、スマホに録音していた音声で文字起こしをしています>>・・・
・・・<<ただ、スマホの録音品質が悪く、うまく再現出来ていません>>・・・

社会福祉法人光友会 ひかり作業所 松田憲明

ただ今、ご紹介にあずかりました「ひかり作業所」の松田と申します。

団体交流会 2022.10.28

ひかり作業所では、ホーム狛江通りと、グループホームれもん、手づくり工房赤いエプロンを運営しています。ひかり作業所は知的障害のある方の通所施設でも、かなり、岩戸南の方ですが、いまのところフードバンク狛江さんと、ここに来る前に施設長と話をしている、あまり、フードバンク狛江さんから連絡が来てなかったよね、っていう話をしていたんですけども、交流会に参加してみて、本当にもう貧困のことですか、ご家庭に実際、物資供給されてるんだねってことで、そういったところに***不明。ありがとうございました。

NPO 法人さつき会 グループホーム朋 長門武

グループホーム朋の、職員の長門と申します。主に障がい・病気のため1人でうまく生活できない、人とうまく関われない方が入居されています。

えー、フードバンク狛江さんには、いつもお世話になって、世田谷通りにアパートかなんかが、あった時から、前理事長が紹介してくれたお知り合いから、ご紹介していただき、以前からお世話になってまして、

食材とか、私も不勉強であまり分からなかったんですけど、あの食材とか色々いただいて、ホームの入居者がすごく喜んでくれたので、すごくありがたいなと思ってたんです。で、私もずっと自分で検索してみてもフードバンクが全国いろんなところでやられていて、そういう活動が狛江でもやってるのかと思っていましたので、あのまあちょっと、びっくりして。消費期限切れに近い食品を活用されてるのが、狛江でやってると聞いて、いただけてるっていうのを、知って、本当にありがたい、あの助けてもらって、ありがたいなというふうにとおりました。

あの助けてもらってばかりなんですけども、今度は助けるとか、まあこちらも、自分なりに何かをしていければと思っていますし、まあ最近では、ええと物価とかも高くなっているんで、まああの入居者の方もいただけると、なんか「やったー」みたいな感じで、そういうこともあるので、あの今後とも、よろしくお願ひいたく、いつもありがとうございます。

NPO 法人えるぶ 小林秀行

こんばんは、「えるぶ」の小林です。

「えるぶ」と言うのは、なんだろうか、と申しますと、フランス語で野草という意味です。私共が、あの狛江市の東野川のほうでですね、障害者の居場所として30年以上活動しております。フードバンクさんから、お菓子や果物、飲料など提供してもらっています。それだけではなくて、あの作ったお菓子をですね、困窮しているこどもたちに、作ってそれを毎月お届けするという活動もしております。

・・・<<スマホ録音からの文字起こしは、ここまでです>>・・・

一般社団法人陽向会 ワークひなた 青木博行

皆様こんばんは、「一般社団法人陽向会（ひなたかい）ワークひなた」の青木と申します、いつもフードバンクさんからは頂き物ばかりで、お米、お菓子ですね、いただいております。皆様のご援助、ありがとうございます、

えっと、就労継続支援 B 型と言う事業所なのですが、私どもの事業所では3障害の方、身体、精神、知的障害の方を受け入れています。設立から5年目を迎えるのですが、やっとええ、18名の登録をいた

団体交流会 2022.10.28

だくことになっております。

B型事業所の内容を、少しだけええと、お知らせします。

ええ、うちの方ではですね、あの一般就労できない障害をお持ちの方を、仕事の機会として、作業をプログラムとして提供しております。その対価として工賃をお支払いして、皆様にですね就労の意欲を、きちんと持っていただくっていうのを、支援しております。

ええ簡単ではございますが、これからもですね、一同頑張っていきますので、今後ともよろしく願いいたします、ありがとうございました。

<参考>-----

・就労継続支援 A 型事業とは；

通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して行う雇用契約の締結等による就労の機会の提供および生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

・就労継続支援 B 型事業とは；

通常の事業所に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して行う就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援事業のこと。

・就労継続支援 A 型と B 型の違い；

A 型事業と B 型事業の主たる違いは雇用契約の有無、つまり事業者と利用者の雇用関係が成立しているかないかという点です。ただし、工賃は A 型にも B 型にも支払われます。整理すると、A 型事業の対象は「通常の事業所で雇用されることは困難だが、雇用契約に基づく就労が可能の方」であり、B 型事業の対象は「通常の事業所で雇用されることは困難で、雇用契約に基づく就労も困難な方」ということになります。

-----<終>

ハンズ・プレイス 竹林伸子 Zoom 参加

ハンズプレイスの竹林です、よろしく申し上げます、

ええ、フードバンクさんとは 2017 年年に、うちが始まった頃からの付き合いをさせていただいてます。

ええ、実はあのフードバンクさんのこういった交流会で、ええ、今もそうなんですけれども、私はあの聴覚障害者を専門とする支援をしております、その時にあの聴覚と精神を併せ持った型の支援とかで、すごく行き詰まっていたんですけれども、あの「さつき会」の方、あの会長さんと、前の理事長さんと出会わせていただいて、勉強会に参加させて頂いたりとか、あまた「友さん」ともあの連携を取ることができて、まああのいろいろ助けていただいたという経緯があります。

ハンズプレイスの活動としては、聴覚障害者の方々に最初はデイサービスで食事を提供するっていうことをやってたんですけれども、あのコロナ禍で全くそれができなくなり、今はあのカフェという形で、あの不定期で、1 週間に 2 回だけえっとオープンして、お弁当をあの一配布して、販売してるっていう形で活動しています。

それに合わせて地域のあの「通所型 B」という、あの高齢福祉課からの支援をいただきまして、聴覚障害者のみならず地域の高齢者の体操教室を開いています。

またあの、コロナ禍でお店が、開けられない時には、うちの大きな目的は居場所づくりだったので、聴覚障害者の方々だけでなく地域の皆さんに、えっと、お弁当や、お子さん達にお弁当を配布したり、あの

団体交流会 2022.10.28

ツイッターで呼びかけて配布したり、という活動をしています。そういった時にも、あのフードバンクさんの寄付の食品などを利用して頂いて、とても助かっております。

コロナ禍でなかなか、ここ居場所としてのおしゃべりの場所っていうのがなかなか、確保できないというか、開けない状況ではありますが、フードバンクさんの支援のおかげで、あの、皆さん気楽に安価に提供できて、また地域の家庭菜園の野菜なども寄付をいただいていますために、とてもおバラエティに富んだお弁当なんですけども、安価で提供できているな、という風に感じております。

いつもご支援ありがとうございます。

<参考>-----

資料 1 ;

通所型サービス B について

- ・通所型サービス B とは住民等のボランティアの方が主体となり、自主的・自発的に運営する通所型の介護予防事業であり、介護予防・日常生活支援総合事業のうち、介護予防・生活支援サービス事業に位置付けられます。
- ・要支援 1、2 か基本チェックリストの判定で事業対象者となられ、地域包括支援センターやケアマネジャーが行う介護予防ケアマネジメントにより支援計画に位置付けられた方が対象となり、利用者のニーズに沿った支援を実践しています。

資料 2 ;

・通所型サービスとは、介護保険によるサービスを利用しようとする対象者が、自らが普段生活している場所とは違うところを訪れ、何らかのサービスを受ける形態のことを総称して「通所型サービス」と呼びます。

・通所型サービスに対し、介護保険によるサービスを利用しようとする対象者の元を、看護師や介護士などが訪れ、何らかのサービスを提供する形態のことを総称して「訪問型サービス」と呼びます

<通所型サービスの分類>

・通所型サービス A ;

通所型サービス A とは、主に雇用労働者やボランティアが事業所内でミニデイサービスや運動・レクリエーション等を行うサービスです。

事業内容は、高齢者の閉じこもり予防や自立支援に資する通所事業としてミニデイサービスや運動、レクリエーション活動を行います。

・通所型サービス B ;

通所型サービス B とは、ボランティア主体（住民主体）で、通いの場を設け、体操、運動等の活動等を行うサービスです。

事業内容は、住民主体による要支援者を中心とする自主的な通いの場づくりとして、体操、運動等の活動、趣味活動等を通じた日中の居場所づくり、定期的な交流会、サロン、会食等を行います。

・通所型サービス C ;

通所型サービス C とは、市町村の保健師等が公民館等で生活機能を改善するための運動器の機能向上や栄養改善等のプログラムを 3～6 か月の短期間で行われるサービスです。

事業内容は、日常生活に支障のある生活行為を改善するために、利用者の個別性に応じて、プログラムを複合的に実施していきます。プログラムには以下のものがあります。

-----<終>

団体交流会 2022.10.28

野川のえんがわ こまち 梶川朋 Zoom 参加

皆さんこんばんは、聞こえますでしょうか、市民グループ「こまち」の梶川と申します、本日は機材担当の一人として、本当は会場に伺うはずだったんですけど、家族がコロナに感染してしましまして、ちょっと今からオンラインなんかで失礼しております。

私たちのグループでは、西野川にある空き家となっていた一軒家を「のがわのえんがわこまち」という名称で週4日地域に開く活動に、コロナ禍の2020年6月から取り組んでいます。乳幼児親子や小学生、シニアの方まで、毎日20名ほど毎月300名前後の方にご利用いただいています。

で、今年度は市の地域福祉推進事業補助金、また本日お越しいただいてもいますが、パルシステムさんの東京市民活動助成基金を頂きながら活動しています。

食に関わる取り組みとしては、まあコロナ禍で、なかなか踏み出せずにいたんですけど、フードバンクさんからの食品提供をいただきつつ、今年の夏休み期間に初めて子ども食堂を小さく開催して20名ほどの子どもたちが来てくれました。またご近所の中華料理「丸仲」と連携させていただいて、丸仲さんの定休日に中華弁当を作って頂き、配布する活動ですとか、丸仲さんの厨房で子供たちがラーメンを作って食べる活動なども行っています。

日頃、「こまち」に来てくれている子どもたちと、ええ「こま YELL」を利用している子どもたちに声をかけさせていただいて、お弁当は約80食の提供、ラーメン作りはええ30名を超える子どもたちが参加してくれました。

で、他にも「こまち」には毎日5~6名、不登校の子供たちが学校代わりに通ってくれてるんですけど、ええまあ給食を食べられない不登校のお子さんの昼ごはんっていう課題に取り組むために、この10月から、平日の開所日「月水金」のうち水曜日は子供たちとスタッフでお昼に何を食べたいか考えて、買い出しに行き、一緒に作るっていう活動を、金曜日は先ほど申し上げた中華料理「丸仲」さんで、給食代わりに、ええ、定食を低価格でいただくって言うことをしています。

まあ、食に関わる取り組みは私たちの活動のメインではなくて、ええ、まあ一部なんですけれども週4日地域に開いているっていう常設性を生かして、地域の子供たち、食の支援を必要とする方のニーズを、まあ柔軟に汲み取りながら、これからもアプローチして行きたいと思っています、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

タルトタタン 田頭知葉

こんばんは、田頭（たがしら）と申します、よろしく願いいたします。

ええ、私たち「タルトタタン」はですね、狛江市内の元和泉にある「よしこさん家（ち）」という場所で毎週水曜日の15時半から6時（18時）まで、あの相談の場と居場所づくりということで、活動させていただいております。

ええ、10代から20代という活動の幅なんですけれども、まああの私、昨年の10月から活動を引き継がせていただいて、4月から代表させていただいておりますが、その活動の中で10代以下の方々からの親御さんから、利用ができないかというようなお話をいただくことが大変多かったのも、ええ、今年の7月から児童向けのイベントとして、まあ子供たちの間で流行っている遊びを、まあ団体のイベントとして行うことで、まあ地域の交流を含めたあそび場の提供などの活動もしております。

で、フードバンクさんとは、このイベントを開催する関係の中で、普段「よしこさん家（ち）」っていう場所は、あの食べ物を食べることがちょっとコロナ禍の関係でできないような場所になっているので、あのイベントに参加してくださったお子さん方に、ええ、お菓子の提供と飲料の提供を参加賞として配布

団体交流会 2022.10.28

することで、えっとフードバンクさんの方にはご協力いただいております。あの大変喜んで頂いております。えっと9月の末に開催したイベントでは、狛江市内から8組、調布から4組、八王子から4組という、あの子どもたちがいらっしやいまして、あのお菓子をくれと言って、受け取って帰るっていうような方も見られました。

とまあ、多分出てる写真があその時のイベントの写真にはなっているんですが、このほかにもあの普段10代から20代の居場所ということで、毎週水曜日に開催しているの、あまあええと、飲料の提供とかお願いできないかなっていうことを、先日ご相談させていただきました。

あの本当にご相談させていただくことばかりで、大変恐縮なんですけれども、とてもあの活動に来てくださる子どもたちが喜んでるので、これからも提供頂けたらなと、思っておりますよろしく願いいたします。

こまえ派遣村 代表 岡村透純

こんばんは、こまえ派遣村の代表の岡村と申します。

ええ、私たちは、ずいぶん前ですけどリーマンショックというものがあまして、2008年に代々木公園の方で、貧困生活者たくさん出た時に、これは狛江でもこういう支援をやっていかなくちゃいけないので、ということで発足いたしました。ええ、2013年に発足したわけなんですけれども、大きなことで申しますと、2020年にコロナの貧困者、新宿のあの道路沿いで、たくさんの方が食糧も求めて行列を作っていたことを、それをテレビで見まして、私たちの狛江でもやろうと言うことで、市の方のご協力と、皆さまの団体のご協力で、やらせていただきました。

ええ、そして、今どういうことを、やっておりますかという、ええ月に2回ぐらいフードバンクから、食べ物とお米を提供して頂きまして、約10家ほどの家庭、貧困家庭の方に、あのお届けさせていただく活動させていただいております。

ええ、それから2年ほど前には猪方の方に「空き家」がございまして、そこで貧困生活者がなんとか生きていけるようなこと、それをまあ活動してるんですけど、私たちは路上生活者、本当に貧困のどん底に落ちている人たちを、なんとか普通の生活に戻るような活動をやりたいと思っております。

皆様のご協力を得て、日本のですね、物価高、それから給料が上がらないその中でも、もっともっと苦しい方が埋もれていると思いますので、ひとりひとりを拾っていくことが、貧困生活者の支援だと思っておりますので、皆さんもよろしく願いいたします

困りごと相談会 平井里美

本日はあのうちらに参加させていただきまして、ありがとうございます。

私たちは狛江市議会議員の有志で作っています、ええ、困りごと相談会のメンバーです。

ええ、今やっているのが、この「松崎よしこ」と私「平井」の二人で、2年前の秋10月から毎週木曜日に狛江駅の北口で、のぼり旗を立てまして、困りごと相談というのはじめました。そして今年に入ってから、あの市役所の裏にあります「くじらハウス」というところで日曜日あの午前中の相談会を開いております。

ええ、私たちは2人でやってるわけではなくて、自治体、あの、議員の地域の自治体議員のみなさんと会をつくりまして、コロナ災害緊急アクションという、これはええ「汎インフォメーションネットワーク」ですとか、「もやい」ですとか、あとは、そうですね「女性の支援の会」ですが、たくさんの方の支援の会の人たちと作っているんですが、そういったあの「SOS」が本部っていうか、ネットで回ってきて、支

団体交流会 2022.10.28

援にかけまわっているというような状況があります。

そんな中で、あの、フードバンクさん、本当にあの、自分がまあ飛び込みなんですけれども、利用させていただいたり、あとは市役所の皆さん、「こま YELL」のみなさんに、繋がせていただいたり、そして私たちの食堂関係でもあの関わっております、ええ、そういったところにつないだり、本当に多くの方々につながることで、多くの方が、「一人じゃないんだ」、もうあの「孤立していないんだ」っていうふうに思ってもらえるように活動を続けております。

ええ、今あの「4円しかなくて、住むところもない、2日間食べてない」こういった、あの、若者が先週もいました。食べ物がないっていうことで困っている若者たちが、この2年で10人は増えています、え、そんな状況なかなか見えにくいんですけども、こうやってつながることで、一人じゃないんだって、情報がここにあるんだって、いうやはりそれぞれの皆さんからも情報精一杯発信していただいて、どこかの誰かに届くように、そういった活動ができたらと思います、本当によろしくお願ひします。

一般社団法人 自立支援ホーム ねこの手 理事長 戸田 (吉田が代行)

- ・ 不明瞭！！で聞き取れず、文字変換されず、なので「配布資料 (団体紹介)」より抜粋
- ・ 無料定額宿泊所 (新宿中野「わかば荘」) を運営、
- ・ こども食堂も月2回開催、
フードバンク狛江から食糧提供を実施。

・・・・・・・・・・以下は、[質疑・応答] の内容です・・・・・・・・・・

(田中究)

ご報告いただいた中で、あのちょっと気になる、ここが一つ聞いてみたいな、この活動ってどんなことやってるんだろうって、疑問っていうか、それぞれ聞いてみたいことが、この際ですからご遠慮なくお話しいただければと思うんですが、何かありませんか。

[感想]

(スペース 102 月末食堂 市原広子)

これだけの方がお集まりになったところから見てきたものとして、ちょっと伺いたいの、平日は「こま YELL」さんが、市役所の中で緊急相談を受けて、無料の支援も回るということが分かりました。

じゃ、社協もあるしということなんですが、土・日は、ええと、市民活動支援センターの空いているということで、スタッフの方が、私ども月末食堂にみえて、うちあの、ドアのそばに緊急食糧1袋を置くようにしました。

で、そのきっかけは、あの狛江で万引きをしてつかまった元芸人の方のニュースがあったことをきっかけに、ええ、置くようにしたんですね。それが、つい最近、2週間前なんですけど、初めて中が空っぽになっていたんです。で、そのようなことを考えまして、土・日は「こま YELL」がもしかしたら対応してくれるのかな？って言う様なことで、ええ地域の中に、平井さんがおっしゃったように、4円しかなくて、っていう方も、ええ、何人もいらっしゃるんですね。

その4円しかないような、こう食べ物がない方が、相談があったということなんで、そういう方の本当に命を繋ぐための、緊急の、こう、ネットワークが、データの管理できるのかなっていう気もするんです

団体交流会 2022.10.28

ね。それであるソーシャルワーカーの方が、私どもの食堂なんかのことを、お子さんやお母さんに情報として伝えて頂けるっていうことも、ちょっと見えたので、あの、そういう繋がりが、またできていけるかなっていう思いがしました、以上です。

(田中究)

はいありがとうございました。

ええとフードバンク狛江にも、電話は必ず1年365日24時間繋いでおりまして、SOSが入ってきます。他都市からオープンで。

え、どういう訳かフードバンクのネットを見ると一番先に出てくるらしくて、「今日回収してるんだったら、行ったらもらえるの」とかって、かなり気軽に来る方もいらっしゃるんですが、私たち、基本的には先ほど言いましたように、いろんなところで地域のフードバンクが、立ち上がってます。ただ、先ほどの中野にはね、フードバンクが無いんですね。

で、あの私たちそういう連絡がありますと、その地域のフードバンクなり、あるいは社会福祉協議会なり、あるいは行政の支援の相談窓口を紹介します。で、わたし達があげるとしても、1回だけ、やっぱりあの自立支援をされていると、あの「こま YELL」もお分かりかと思うんですが、単に食べ物だけで解決するわけじゃないんですね。

ですから、必ず「地元のそういった支援の団体と、つながってほしい」と言う話をするんですね。

「1回だけだったら送ります」という事は言います。ただ最初にまず、そういう地域の支援団体、行政、社協に相談してください、という話をしています。

狛江の中でも、私どもあの SOS があれば、すぐ対応するわけですし、すぐに「こま YELL」さんに、つなぐわけですけども、本当に困っていれば、「平井さん」もフードバンクに来ましたけれども、食の支援に関しては、是非フードバンクを活用していただきたいと思います。あとはあの皆さんが本当に地域で活動される時に食を大事にさせていただいて、で、それを繋いでいただく方、それを私たちは繋いでいきたい、というふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

あのえっと8時10分までなんですけれども、3年ぶり、こういう風な形でやって、何か企画を考えようかと思ったんですが、まずは皆さんの「顔と顔」を会わせて、どうなんだろうってことを、まず知って頂こうと思ったもんです。そんな意味で、良い機会なんで、いろんな団体さんに聞いてみたいことはありませんでしょうか。

Q [質問]

(多摩南生活クラブ生活協同組合 木戸祐樹)

すみません、えっと、1つ気になったことがあってですね、まず先程からご紹介頂いた団体様は、みなさんはやっぱり地域福祉であったりとか、ええ、その社会問題、社会課題というものに、あの、真摯に取り組んでいらっしゃるの、すごく、ひしひしと伝わってきて、例えば食品だったりとか、あの食品提供と、あとはそういった障害者の方の就労支援だとか、そういった支援のほうは、また社会課題をなんか1つの線路にすべて乗っているような気がしてなりません。

その中で、ええ「タルトタタン」さんの活動の中、チョット気になったんですね、あのお子様の相談を、結構、乗ってらっしゃるという、お話をさせていただいたんですけども、その対象実績の年齢層だったりとか、まあ下は何歳から上は何歳ぐらいまで受けてるのが、その相談内容、言える範囲で結構ですので、

団体交流会 2022.10.28

どういったことに子どもたちが困っているのかなって、いうところをちょっと聞いてみたいと思いました、お願いします。

A [回答]

(タルトタタン 田頭知茉)

ご質問ありがとうございます、

えっとまあ、詳細内容については守秘義務があるので、あの、こういう内容だよっていうことは、あの、ご紹介できないんですけども、基本的に当事者の方が、お1人で来るっていうケースが、そもそもの問題で、とても難しい問題ですので、基本的にいらっしゃる方、親御さん**まって**いうので、そこからまあ親御さんと話をして行く中で、お子さんが興味を持ってくださったら、来てください、だとか、まあ活動に並行して、私の方で SNS とかで発信しているので、SNS を見た方が、あの来てくださって、あの、お話頂いて言うような方が多いかなって、いうところで、市内だと本当に、小学校の低学年の方から、まあ、上だとまあ中学生ぐらいっていうところですけども、まあ市街からもいらっしゃるので、まあ本当に小学校から 20 代後半、本来は 20 代までの居場所にはなってるんですけども、近くは神奈川県内のほうから 30 歳の方も見えたりしているので、まあ内容的には、まあ生活のこと、友人関係、人間関係ぐらいのことが、ベースにはなっているかなと思います、(お答えとして) 大丈夫でしょうか。

(木戸祐樹)

はいありがとうございます

(田中究)

他にこの会議でアピールしておきたいことなどありますか。あのうパルシステムさん、どうですか、なんか皆さんに、こういうことでしてほしいとか、ありますか。

Q [質問]

(パルシステム東京 渡辺)

あ、はい、でちょっと参考までにお伺いさせていただくと、パルシステムの方で、今って、フードバンク狛江さんにお渡ししているのは、いわゆる常温品なんです。話を聞いてると、卵、果物、要は生鮮品のものでも喜ばれるみたいな声が聞こえてきてるんですけど、それってどうなんですかね。

アレなんですけど、生鮮品など傷んじゃうから、その日に渡すとかっていうんじゃないと、なかなか渡せなかったりとかすると思うんですけど、どのような感じで、してるのかなってというのが質問です。

A [回答]

(フードバンク狛江 理事長 田中妙子)

ありがとうございます。以前パルシステムさんの会議で、フードバンク団体と社協なんかも参加して、食品ロスになってしまう青果品を何とかできないものかと。そして東都生活協同組合さんからも、いろいろ、そんなお話をいただくんですが、セカンドハーベストジャパンって大きいフードパークはちゃんと冷凍車・冷蔵庫を持っているんですが、小さな地域密着のフードバンクは、そういう設備がございません。

それであの、あのイベントにデコレーションで使われた JA 東京中央会のお野菜を大量にもらったことがあって、それを「お渡し会」で提供しました。もうスタッフやボランティア、本当に大変な思いでセッ

団体交流会 2022.10.28

トして下さったんですね。で、それもでも、ものすごい大人気だったんですけれども、やはり、まず設備面が大きな問題。これはあの場所を提供して下さっている、狛江市さんに米保管庫などを買ってもらったんですけど、それをうまく、青果物の保管にも使えたら、とか、あの「レバー」を頂いたりしたことがあるんですけれども、それは団体様にしか使えなくて、本当に困窮者の生活支援にはなかなか回せないという問題があります。今 164、日本で立ち上がっているフードバンク、大きいフードバンク以外はやっぱりみんな小さいところもたくさんできているので、その大きな課題、ではあるかと思うんですが、やっぱり青果物はものすごく喜ばれるっていうのがあります。うちのスタッフがあの援農に行って収穫して来てくれて、それをつけたこともあるんですけど、「お渡し会」で大人気でしたね、本当に。だからまあ「こま YELL」さんの食料支援を受けている方もやっぱり野菜があるといいなって思っています。もちろん地元で立ち売り販売所なんかで 150 円、200 円で良い野菜も手に入るんですけども、そういう意味では、そこを邪魔してはダメだと思ってきた経緯があるんです。本当に助け合うというところでは、やっぱり青果物もフードバンクで扱えるようになりたいなあ、でもそんなことしたら、そろそろ私はお迎えが来ちゃうところかな、なんて思っております。はいありがとうございます。

(田中究)

そろそろ、時間が迫ってまいりましたけれども、今フードバンクの抱えている課題っていうのは、みんな高齢化しちゃって、今後、あとのどのくらい、できるんだろうって。で、例えば配送にも車で運転して行くんですけども、みんなドライバーが 70 歳以上になんですよ。私も 70 歳で。やっぱり、だんだんどこで、配送してもらおうんだろうかっていうのは、ほかのフードバンクも課題になっています。

皆さんの想いと想いを繋ぐためには、そういう、人の働きかけがあって、そこをクリアしないとうまく繋ぐっていうのは、難しくなると、思っています。やっぱり地域のフードバンク活動をもっと、持続可能なものにするためには、フードバンクだけではなくて、今日ここには JA さんがいらっしゃいませんけれども、JA さんも含めて、食の分かち合いを、狛江の地域の中で推進していこうという、なんか協議会なり、会議なり、こういったものが必要かなと。フードバンクはその中のまあ、一翼を担う形で、絶対狛江の中で食べるものに困ることってことは無く、本当に必要だったら、ちゃんとそれが分かち合いとして、提供できるというような、そんなものを夢想しています。

ぜひ皆さんも、あのこういう機会ですから、また来年開けるかどうかわかりませんが、あの皆さんの想いと想いを、今後もやっぱり繋いでいきたいと思えます。

ええと時間になりますので、最後になりますが、閉会の挨拶ということで、中島副理事長のほうから挨拶させて頂きたいと思えます、最後に何か言いたいありませんか、大丈夫でしょうか。はいありがとうございます。

NPO 法人フードバンク狛江 副理事長 中島信子

今日は本当にご多忙の中ありがとうございました。

私、最後になりますが、本来はもう半世紀にわたって文筆業をしてきまして、で、ほとんどがマイノリティの子ども、要するに、あの、お父さんが犯罪者だったり、ヤングケアラーだったり、そういう子どもたちを描いていきました。

で、私は描いてきた中で、自分のほとんどの著作(作品)にモデルがいたかっていうと、誰もいません。そういう子をモデルに書くことは絶対できません。で、みんな私の筆の中から出た子どもなんですけれど

団体交流会 2022.10.28

も、その筆の中から出た子どもが、あの今回、2016年にあの「八月のひかり」を書くために、貧困のことを伺うために、フードバンク狛江を訪ねたっていうのが、あの、フードバンクとの関わりです。

で、まあ、お陰様で何とかフードバンクの力を借りて、あの2019年上梓させてもらいました。まあ、その後もいくつかの作品が出て、ずっとずっと50年間さまざまな場面で恵まれない子どもたちを描いてきたんですけれども、あの初めてフードバンクに関わって食品のお渡し会で、要するに貧困の中の子どもたちが、実際的に現実としてあの「お渡し会」に来たときは、正直足が震えました。

私が初めて見る現実の子どもたちがあったということで、それから「お渡し会」の皆さんのそのフードバンクに関わる人たちのあの瞳を見て、これも本当にそういう心から感動致しました。

あの私は、あの本当の意味で、巷談に耐えうるものの、巷談を凌駕できるのは、愛と優しさ、しかないと思っています。まあそれは、皆さん同じ、今日ここへ参加していただいた方、皆さん同じなんだなあっていうのを、改めてそう思いました、私は個人的に、あと1分ずつでもいいから、皆さんの話が聞きたかったっていう、それが正直な思いですね。

でもこのような会を、あの皆さんがこうして参加して下さったことは、本当にありがとうございます。それこそあの多くの賛助団体の皆さんや、それからあの様々な形で関わってくださる方々の、それぞれの会の理念が、多くの市民の方の心に届きますように、それをとても祈念して、会を締めさせていただきますと思います。あのフードバンク狛江で事務局の若い2人のスタッフは、本当に骨身を惜しまず頑張ってもらっています。今後とも狛江フードバンクを、よろしくお願い致します。本日は本当にご多忙のなか、ありがとうございました、これで締めさせていただきます。

<<以上>>